

富士見市基本構想策定ふじみ市民会議

平成22年度第2回全体会 会議録

日時：平成22年6月16日(水)
午後7時～午後9時
場所：全員協議会室

出欠状況

| | |
|----------------|--|
| 市民会議委員 | 27名出席・13名欠席（別添名簿参照） |
| その他の出席者 | 副市長 |
| 事務局 （政策財務課） | 総合政策部長、課長、古屋、吉野 林（教育文化部会担当）、森園（市民協働・自治・財政・行革部会担当） 中島（健康福祉部会担当）、平（まちづくり環境・建設部会担当） |

| | |
|-----|----|
| 傍聴者 | なし |
|-----|----|

内 容

1 開 会

政策財務課長

2 あいさつ

副市長あいさつ

川上副委員長あいさつ

3 説明事項

- ・富士見市第5次基本構想素案について
- ・今後のスケジュールについて

事務局 資料を基に基本理念、将来都市像について説明

委 員 まちづくりの基本理念について、「ともに考え、ともに行動する市民協働のまちづくり」と大きく括られているが、下段の説明文まで読むと内容が分かるが、次ページの第3次、第4次の基本理念と同じように、タイトルだけで表示されると、市民同士の協働というイメージを受ける。「ともに」が市民同士なのか、一緒にまちづくりを行っていく市民と行政なのかがしっかり分かるように、もう少し文言を付け足した方がよいと思う。下段の文章がつくのであれば理解できるが、タイトルだけ示されても考えが伝わらない。

次に第2節の将来都市像のところで、「ひととまちがキラリとかがやく」と書かれており確かにすばらしいと思うが、どちらかというところ、文化の発信基地ということで、市民文化会館キラリふじみという施設だけに特化していくのかなと感じてしまう。このあた

りの考えは。

事務局 私たちもこの文章を作るときに悩んだ。これまでの地域別懇談会などの意見も踏まえながら、様々なことを考えながら進めてきた。最初のご質問については、単なる基本理念の3つのタイトルのみを掲載するものではない。タイトルの下に解説文を掲載する。

それから将来都市像の「キラリ」の部分は、文化会館をイメージしているのかということかと思うが、ひとつにはそういった部分もある。将来都市像というのは、他の市のものを拝見すると、「快適な環境都市」や「緑豊かな」など、どこの市でも通用するフレーズが多く使われている。この短い文章の中で、市民の皆さんが、「富士見市の将来都市像」とわかるような表現を心掛けた。そういった本市の固有性・独自性を表現するために「キラリ」というフレーズを使っているもので、「キラリふじみ」そのものを表現しているものではない。

委員 第1節、基本理念で、「人間尊重と市民生活優先のまちづくり」とあるが、第3次、第4次にも同様のものがある。同じような言葉を羅列しているだけに過ぎない印象を受けるが、どのような差別化があるのかお聞きしたい。

事務局 基本理念と将来都市像の考え方であるが、例えば人の生涯に置き換えると、生き方そのものが基本理念であり、簡単に変わるものではない。将来都市像は、将来の目標、夢のようなもので、節目節目で変わるものである。

委員 第1節の「人間尊重と市民生活優先のまちづくり」について、私が子どもの頃、富士見市が日本で始めて人間尊重宣言をしたと記憶している。非常に誇らしい気持ちになったことを覚えている。この部分にそういったことを表現していただき、今の子どもたちにも誇らしい気持ちになっていただきたい、と考えている。意見ということで発言させていただいた。

委員 将来都市像について、「市民文化交流都市」とあるが、市民が交流することは分かるが、ここで考えている文化交流とはどういうことなのか。もうひとつ、絆と和の「わ」の漢字の使い方について伺いたい。説明書きでは「輪」を使っている。人と人とがつながっていくということであれば「輪」の方が分かりやすいのではないか。

事務局 文化という言葉は非常に幅が広い、狭義には文化・芸術というように考えられるが、広義には人の生活そのものが文化といえるのではと考えている。将来都市像では、広い意味での文化をイメージしている。市民が富士見市に単に居住するというのではなく、ここに住んで権利を得て、義務を果たしていくという中で、そこで生活をして、様々な交流があってというイメージで、“市が元気な”という思いも込めて、文化と交流をつないだ表現を使わせていただいた。

「絆と和」の「和」についてであるが、絆は、比較的身近な人々のつながりの部分であり、和というと、もう少し広がって地域の輪、住民同士の輪の部分になると思う。色々と地域の懇談会に出席させていただいて感じたことは、地域のコミュニティが希薄になってきているということ、また町会の役員の後継者問題などである。そういった部分の対策を強めていって、現在そうした活動に参加していない若い層の市民も含めて、地域づくり、市政に参加していただくということで、「和」のほうを使わせていただいた。意味合いとしてはご指摘いただいた「輪」の部分もあるが、漢字としては「和」を使っ

た。

事務局 将来人口について説明

委員 今の説明の中で、水子地区と南畑地区は市街化を抑制する区域だったが、少し様子が変わっていくようなお話があった。私は、富士見市が持っている自然環境の良さというものも前面に出していくべきではと思っている。こうした考えはどのように併記していこうと考えているのか。

事務局 人口がどう増減していくかという見込みは、まず現状の中で推計をして、その他に水子地区と諏訪地区という市街化に編入される地区について、まちづくりが進んだ場合、どの程度人が増えていくのかというのを別途推計して上乘せしたものである。

この水子地区には多くの農地があり、急激に市街化され住宅が建つというものでもない。農家の方々が土地利用について、農地として今後も使っていくという部分については当然守られる。決して緑を破壊して急激な開発をしようとするものではない。南畑地区は市街化区域に編入できる条件はない。したがって、市街化区域に編入して開発するのでは無く、一定の条件の下、既存集落内について、住宅などの建設が可能になるということである。

副市長 補足すると、今言ったような地域の人口増加は千人にも満たない。この10年間を見通したときに、多少の市街地の広がりはあるが、大きな人口増加要因にはならない。従来のみずほ台や針ヶ谷、勝瀬原のように、駅周辺の大型区画整理を実施したところは数万単位で人口が増えてきているが、これからの10年は、こうした大きな人口増加要因はないという前提に立っている。したがって、ほぼ横ばいという推計は、逆に実現できるのか、という部分もある。今、富士見市は子育て支援の施策を色々やっているが、若い世代が住んでくれるということがないと、この推計より人口が減るかもしれない。ここで示した将来人口は10年後であり、様々な社会的要因等があるので、正確な予測は困難であるが、全国で人口が減る、埼玉県でも人口が減る、しかも埼玉県は全国一の高齢化率のスピードとなっており、そして本市も同様である。といった状況の中、これまでの基本構想の将来人口と比べると、今回の人口増加要因は極めて小さいものであると考えざるを得ない。

委員 人口の想定であるが、これは15万や20万になるということはあるにない。そこで、何が問題かということ、これからは都市基盤整備にどれだけ予算を向けることができるかということが一番の転機になる問題である。もうひとつは財政上の歳入がどう動くかということである。人口が1万増えようが人口推計上、大きな差にはならない。この後に基本計画があって、そこに施策が盛り込まれるということであるから、将来人口は人口が増えない状況の中で、市の運営方針を決めるひとつの案であると思う。そんなに大きな変動がないということが分かっていたら、将来人口については、それでよいのではと思う。

事務局 資料を基に、施策の大綱について、前回からの変更点のみ説明。

委員 国際交流の推進というのがどこの項目にも出ていない。重要度が下がったのか。特に子どもの教育など、文部科学省から定住外国人の子どもの就学支援事業というのが、向こう3年から4年をかけて、38億円を投入して取り組むようになった。それに対して富士見市にはそういった子どもたちはいないのだろうかと思ってしまう。こういった

テーマは本市にもあるということを確認していただきたい。

事務局 委員がおっしゃられた国際交流の内容は、11ページ「人権の尊重」部分の多文化共生、外国籍市民が暮らしやすい環境を整えるということで位置付けている。また、具体的な取組みは、今後の基本計画の中で盛り込んでいく予定である。

委員 第6章の④に「広域行政の推進」とあるが、「市民参加・協働による豊かな自治をつくる人のまち」のところでのよいのか、その確認と、第4章に農業の振興、商業の振興など産業的な部分があるが、先ほどの人口フレームを吟味してみても、これからの行政の組織としてのあり方・進め方、税収の問題等、また産業がない中、行政もひとつの産業と捉え、第4章の中に行政経営の効率化など、なんらかの行政の目標などを書いてよいのではと考える。

事務局 委員がおっしゃられた行政としての取組み姿勢は、産業の分野ではなく、第6章に位置付けている。この具体的な内容は大柱で（2）計画的な総合行政の推進、（3）健全な財政運営ということで位置付けている。

広域行政については、章のタイトルと比較すると若干の違和感はあるかと思うが、市民協働の動きの中、行政の動きも位置付けていくということで、こちらに置いている。

委員 第4章の「農業の振興」のところであるが、財政出動的なことの考えは。農業は非常に厳しい状況に置かれている。恐らく5年くらいで、富士見市産のものが食べられなくなってしまうのではと懸念している。既に富士見市産の肉が食べられない。こうした状況の中、財政出動がないまま、固定資産税などのほか、国保の改正など費用負担が増加すると、後継者がいなくなってしまう。総花的には書いてあるが、財政関係の文言が無い。財政関連の施策が無く農業をやろうとしても厳しいと考える。

また、先ほど、富士見市産の肉が食べられないと言ったが、養豚業などが無いということで、既に次ページに書いてある循環型社会がつかれない状況になっている。こういったところを行政がどう舵取りをしていくのか、そのことについて、目標が書いてないと、「循環型社会」も「農業の振興」も成しえないと考える。その点について伺いたい。

事務局 農業の関係は12ページに書いてある。今おっしゃられた具体的な支援策ということであるが、ここでは、方向性として示している。まずは、優良農地を守ること、経営基盤の安定を図る施策を進めることなどである。また担い手、農業に従事できる環境を整えることも触れているが、具体的な支援策は、基本計画の中でご協議させていただく。

委員 感想であるが、富士見市の場合は近郊農業であるため、肉や卵は困難である。現実的には家畜の糞尿の臭いなどの問題で厳しいと思う。市内に3件酪農家があるが、荒川沿いなどで行っている。それでも風などで近隣に影響を及ぼしているが、昔から住んでいる住民同士、理解し合いながら酪農を営んでいる状況である。また養豚については現在はなくなっている。問題は、えさが高騰したことによる。補助金などもあったが、基本的に足りない。農業は脆弱である。

農業については様々なジャンルがあるので、優良農地の場合は、米・小麦など二毛作や、市民の参画する農業の取組みなどが、今後の生きる道と考えている。

委員 お示しいただいた資料では大柱までが示されているが、例えば防災・防犯対策の充実のところ、市民一人ひとりの意識の向上などが書いてあるが、これで終わりなの

か。今後、具体的な取組みについて検討する機会があるのか。

事務局 現在、庁内で具体的な施策について検討している。それをお示しして、意見交換をしたいと考えている。

委員 第3章について、生涯学習をはじめ、各種法体系に基づいた内容が盛り込まれていると思うが、やはり教育が前提にあり、生涯学習や人権などにつながっていくものと考ええる。その点からも第3章のタイトルに「教育」という言葉を入れることについて、ご一考をお願いしたい。

委員 将来都市像で「地域が主役のまちづくり」と書いてあるが、その地域が分野別に小学校区や公民館区など様々であり整理していただきたい。分野別の懇談会でもこの内容の意見は出ていたと思う。しっかりとした地域割りをお願いしたい。

また、審議会の傍聴もさせていただいたが、審議会と市民会議の区別が分からない。役割を明確にしていきたい。

事務局 地域割りについては、小学校区と公民館区など様々な分野でそれぞれあるが、行政内部でも同じような意見は出ている。今の時点で、全て整理することは難しい。地域との話し合いも必要である。まちづくり協議会をどういった形で置くかというところから進めていく考えである。身近な地域課題を身近な地域で解決していくという方向性を示したものである。ご指摘の部分は今後の課題ということである。

審議会と市民会議との関係は、審議会は横断的な組織、市民会議は分野別といったところである。

委員 目標の1～6、カッコ内の番号は優先順位を意識しているのか。特に財政との関係で当然できないもの、相反するようなものも出てくると思う。基本計画は議会を通さないと聞いているが、そうした中、基本構想で大きく書いて、後は基本計画に落とし込むというのはいかがなものかと思う。

事務局 優先順位については、庁内でも議論したところである。結論から言うと優先順位はないとお考え頂きたい。お示しした大柱については、今後、具体的な施策・事業が入って、市民の皆さんと行っていくという考え方の元になるものであることから、どれが一番といったものではない。

それから事業を具体化していくためには、財政の裏付けが必要である。財政とのバランスをみて事業をしていかなければいけない。無茶なことをすれば夕張市のようになり、結果として市民の皆様にツケが回ってしまう。そういった情報も市民の皆様に公開して、そのなかで解決策を皆さんと考えていかなければならないと考えている。

ご指摘の基本計画と議会との関係については、当然議会にお示しするものである。そのうえで、基本構想の議決を頂く考えである。

事務局 部会別に次回の日程調整をお願いしたい。

副市長 閉会あいさつ

閉会

富士見市基本構想策定ふじみ市民会議 委員名簿

| | 欠席 | 氏名 | 備考 | 所属部会 |
|----|----|---------------------|----------------------|-----------------|
| 1 | | アサノ キミオ 浅野 喜美雄 | 公募市民 | まちづくり環境建設部会 |
| 2 | 欠 | イノウエ ユキオ 井上 幸雄 | 富士見市環境施策推進市民会議 | まちづくり環境建設部会 |
| 3 | 欠 | オオスギ マリエ 大楢 麻理恵 | 公募市民 | まちづくり環境建設部会 |
| 4 | | オガタ タダオ 尾形 忠男 | 水谷東地域安心安全ネットワーク | まちづくり環境建設部会 |
| 5 | | サイトウ シゲハル 齊藤 重治 | 富士見市商工会 | まちづくり環境建設部会 |
| 6 | 欠 | セキノ エイタロウ 関野 英太郎 | 富士見市商工会 | まちづくり環境建設部会 |
| 7 | | チクサ ヒデノブ 千種 秀信 | (財)埼玉県生態系保護協会富士見支部 | まちづくり環境建設部会 |
| 8 | | ホンダ アケミ 本多 明美 | 公募市民 | まちづくり環境建設部会 |
| 9 | | ヤギシタ ハルヨシ 柳下 春良 | 富士見市農業研究団体連絡協議会 | まちづくり環境建設部会 |
| 10 | | ヤマダ イサオ 山田 勲 | 設計事務所代表 | まちづくり環境建設部会 |
| 11 | | ヨコタ サダオ 横田 貞男 | 富士見市商店会連合会 | まちづくり環境建設部会 |
| 12 | 欠 | アラタ カツヨ 荒田 勝代 | NPO法人ふれあいTAP | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 13 | | カワゾエ セイジ 川添 生治 | 富士見市町会長連合会 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 14 | | ケガサワ カツミ 氣賀澤 克己 | 富士見市男女共同参画推進会議 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 15 | 欠 | サカキハラ ジュン 榎原 淳 | 元富士見市都市計画マスタープラン策定委員 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 16 | 欠 | シマムラ ノボル 島村 昇 | (社)東入間青年会議所 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 17 | | タナカ タカシ 田中 栄志 | 公募市民 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 18 | 欠 | ナガシマ タカシ 長島 孝 | 富士見市行財政改革市民会議 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 19 | | ヒダワ アキヨシ 飛田和 章好 | 元富士見市行財政改革市民会議 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 20 | 欠 | モリタ マサヤ 森田 昌也 | 富士見市体育指導委員 | 市民協働・自治・財政・行革部会 |
| 21 | | イガラシ モリオ 五十嵐 守雄 | 公募市民 | 健康福祉部会 |
| 22 | 欠 | イズミ ノリコ 泉 法子 | 大学生 | 健康福祉部会 |
| 23 | | ウスイ エイコ 臼井 英子 | NPO法人グループみずほ | 健康福祉部会 |
| 24 | | オオシマ レイコ 大島 玲子 | 富士見市ファミリー・サポート・センター | 健康福祉部会 |
| 25 | | カコウ ナオミ 加光 直美 | 富士見市民生委員児童委員協議会連合会 | 健康福祉部会 |
| 26 | | カトウ クミコ 加藤 久美子 | 公募市民 | 健康福祉部会 |
| 27 | | カワカミ ノブオ 川上 伸夫 | 水谷東地区社会福祉協議会 | 健康福祉部会 |
| 28 | | キウチ カズオ 木内 一夫 | 富士見市身体障害者福祉会 | 健康福祉部会 |
| 29 | | チャギ ミヨコ 茶木 美代子 | 富士見市食生活改善推進員協議会 | 健康福祉部会 |
| 30 | 欠 | ホシノ ヨシタカ 星野 好孝 | 富士見市地域自立支援協議会 | 健康福祉部会 |
| 31 | | アベ カズシ 阿部 一志 | 公募市民 | 教育文化部会 |
| 32 | 欠 | イシイ トモコ 石井 智子 | 大学生 | 教育文化部会 |
| 33 | | イワタ ヒトシ 岩田 仁 | NPO法人ふじみの国際交流センター | 教育文化部会 |
| 34 | | タカハシ さかえ 高橋 さかえ | 公募市民 | 教育文化部会 |
| 35 | 欠 | テラジマ ナオコ 寺島 直子 | 富士見市青少年育成推進員の会 | 教育文化部会 |
| 36 | | ニシヤマ ヒロミ 西山 ひろみ | 富士見市PTA連合会 | 教育文化部会 |
| 37 | | ハネイン タカヒロ 羽石 貴裕 | 富士見市地域こども教室運営委員会 | 教育文化部会 |
| 38 | | フカダ ヒロコ 深田 浩子 | 富士見市教育相談研究室通室生指導員 | 教育文化部会 |
| 39 | | ヤマグチ ヤスオ 山口 靖雄 | 富士見市体育協会 | 教育文化部会 |
| 40 | 欠 | ヨコタ ヤスオ 横田 康男 | 元富士見市社会教育委員 | 教育文化部会 |